

# 利用者の生活、見える化

## トイレ介助、睡眠データを自立支援に活用

社会福祉法人芦別慈恵園（北海道芦別市）が運営する地域密着型特別養護老人ホーム「芦別慈恵園 かさねるま」（平均要介護度3.9/20床）では、4月よりエコナビスタが提供する見守りシステム「ライフリズムDrc」（以下・ライフリズムナビ）を全床に導入。ケアの負担軽減、睡眠データを用いた利用者のQOL向上などに活用している。川邊弘美理事と和田直樹理事に話を聞いた。

### 社会福祉法人芦別慈恵園



川邊弘美 理事



和田直樹 理事

施設の特徴は、川邊 地域社会の一員として地域に根差したサービス提供に注力している。施設の食堂を「地域食堂」かきくろま食堂」として、利用者と同じメニューに調理師の1品を加えたランチを500円（70歳以上・小学生以下300円）で提供。また、認知症予防となる学習療法を利用者・地域住民に提供する「えがお塾」を開講。えがお塾は芦別市内で5教室を運営している。そのほかに

も、町内会とともに、植栽や運動会の開催などを行っている。ケアで力を入れていることは、川邊 人の体は半分以上が水分でできており、1日約3000mlの水分摂取が必要だ。飲水として1500mlを飲まないとい調子を崩しやすく、便秘気味になったり、認知症のよくな症状を招くことがある。

ある。2016年から、利用者に対して水分500ml摂取、トイレでの排泄を実施している。トイレでの排泄が、自身で立つことができず、自分で立つことができず、トイレでの排泄が、自身で立つことができず、自分で立つことができる。2016年から、利用者に対して水分500ml摂取、トイレでの排泄を実施している。トイレでの排泄が、自身で立つことができず、自分で立つことができる。2016年から、利用者に対して水分500ml摂取、トイレでの排泄を実施している。トイレでの排泄が、自身で立つことができず、自分で立つことができる。

導入について。和田 ユニットが1階と2階に分れており、夜勤1名で対応しているため、訪室が負担になっていた。決められた時間に訪室するのでなく、必要な時に駆け付けるようにしたいと考えていた。そのためは根拠となる情報が必要だった。また、当施設がサテライト施設になるため、母体となる「特別養護老人ホーム芦別慈恵園」からも、利用者の状態を正確

にセンサー設置。アラートが発報した際に、居室に訪問し利用者を介する。根拠に基づいたケア提供

### 根拠に基づいたケア提供

認できれば、情報共有になりケアの質も向上すると思った。

トイレ介助の負担軽減に活用している。川邊 これまでトイレに行くときは、決められた時間にスタッフが利用者に声をかけて一緒に行くか、利用者自



データからケアを検討

ら行くかのどちらかだった。ライフリズムナビ導入後は、トイレを利用する際の転倒リスク減少のため、トイレ

見守りでの活用について。川邊 看取りケアに力を入れていたため、職員が利用者の呼吸、体温、食事量、BMIなどの変化から予測することができていた。それに加えて、利用者の状態変化をデータで可視化できるようにするために、根拠に基づいたケアが提供できるようになり、スタッフの自信にもつながっている。

睡眠データの活用は。川邊 睡眠が浅いと認知症の症状が強くなるケースがあるため、ライフリズムナビの「快眠指数」「睡眠環境指数」を基に日々の睡眠状態を確認し、利用者が熟睡できるように適したマット選びにも活用している。パーキンソン病患者の利用者にエアマットを利用してもらうことで、寝やすくなり体の痛みも和らいだ事例もある。また、入院前後では、睡眠状態が明らかに異なる場合があり、睡眠データを基に睡眠障害の原因を特定するきっかけにもなっている。一部の職員はデータを見て検討できるようになったので、この取り組みを浸透させていきたい。今ではライフリズムナビのデータを確認することをケアプランに入れて意識づけを行っている。

今後については。和田 見守りシステムを導入するだけで全てが業務改善するとは考えていない。転倒防止、状態変化の見える化などはケアの質を向上させることができるため、ほかの施設にも必要なことだ。かさくろままでの成功事例を法人全体でも行えるようにするために、情報共有を行っていききたい。

TOKYO GAS PRESENTS

# 未来授業 2030

— FUTURE LESSON 2030 —

これからの在宅シニアDXを考える特別授業  
東京ガス×稲城市 在宅DX担当ロールモデルが登場!

2022 12 / 1 [Thu] 13:00-15:00  
オンライン開催

お申し込みはこちら

※事前のお申し込みが必要です。後日の配信はいたしません。  
※主催・共催会社の意向により同業者の受講はご遠慮いただいております。  
ZoomのURLは、開催日の1～2日前に、メールにてお送りいたします。  
メールの転用行為を禁止しています。複数名の参加を希望されるお申し込み者は、参加者毎のお申し込みをお願いいたします。

**01 限目 三神 彩子** 東京ガス(株) 都市生活研究所 所長

インフラ企業の視点から  
将来社会を俯瞰する

人生100年時代に求められるこれからのシニアライフ  
13:05~13:30 (25分)

**02 限目 荒井 崇宏氏** 稲城市 高齢福祉課 高齢福祉係 係長

ICTを活用した  
稲城市の在宅シニア見守り

13:30~13:55 (25分)

**03 限目 五島 清国氏** テクノエイド協会 企画部 部長

テクノロジーを活用した  
未来の在宅介護

13:55~14:20 (25分)

**04 限目 トークセッション** 14:30~15:00 (30分)

今の在宅福祉からイノベーションは生まれるか?

本セミナーにてご案内!

稲城市も取り組む  
在宅見守りDXサービスモニターを実施中!

※本セミナー以外の場所で、同時または類似の募集をすることがあります。  
※ご協力いただき規約に記載の条件を満たした法人様に限ります。

委託料お支払い  
東京ガス(株)

主催：株式会社高齢者住宅新聞社 / 東京ガス株式会社

お問い合わせ先：〒104-0061 東京都中央区銀座 8-12-15 TEL.03-3543-6852

エネルギー・フロンティア

TOKYO GAS